

第32回
飛水クラブぎふ
作品コンクール

作品集
2024

● 目 次 ●

美術作品	● 日本画	2
	● 洋 画	6
	● 工 芸	10
	● 彫 刻	15
	● 書	18
	● 写 真	22
文芸作品	● 短 歌	29
	● 俳 句	32
	● 川 柳	36



日本画

洋画

工芸

彫刻

書

写真

文芸

美術作品

日本画

※審査員 櫻井 正信 氏

優秀第一席



路 地

岐阜市

川地 勲子

色調は統一感があり良いですが、坂道の遠近感が強調されすぎており、構図に改善の余地があります。また、画面の中心に花が配置されている点も再考の余地があります。もう一工夫加えることで、さらに魅力的な作品になるでしょう。

優秀第二席



薄 暮

羽島市

中川 ゆう

秋の湖畔の雰囲気がよく表現されています。ただし、左右の木の距離感が同じなため、構図が左右対称的になりすぎている点が惜しいです。もう少し工夫することで、さらに魅力的な作品になるでしょう。

優秀第三席



春の奥飛騨

北方町

平田 貞夫

墨の濃淡が非常に良いです。ただし、構図が画面の下半分に集中しているため、全体のバランスを考慮するとさらに良くなるでしょう。

優秀第四席



梅薫る

大垣市 宮下 芳子

優秀第五席



慈 愛

中津川市 後藤 在利



成就の喜び

岐阜市 井上 勝



悠 悠

岐阜市 西尾 光明



風 神

岐阜市 津田 尚子



牡 丹

大垣市 佐藤 美智子



郡上八幡城

関ヶ原町 河合 久雄



小山観音

美濃加茂市 早川 志津香

● 美術作品 ●

洋 画

※審査員 青木 年広 氏

優秀第一席



その先へ

大垣市

佐藤 淳子

透明水彩の絵であるが、光と影と山道を歩く人の感じが愛情をもって描かれていて、好感が持てます。

優秀第二席



鉄 路（てつろ）

笠松町

五藤 雅哉

大胆な構図で遠近感が力強く表現されています。

優秀第三席



ドナウ河岸とブタ城

美濃加茂市

今井 寿美子

写真的で空間にもっと工夫された色の巾があるとさらに良くなりますが、全体的に根気よく描かれています。

優秀第四席

優秀第五席

洋
画



観世音菩薩

多治見市 大内 明子



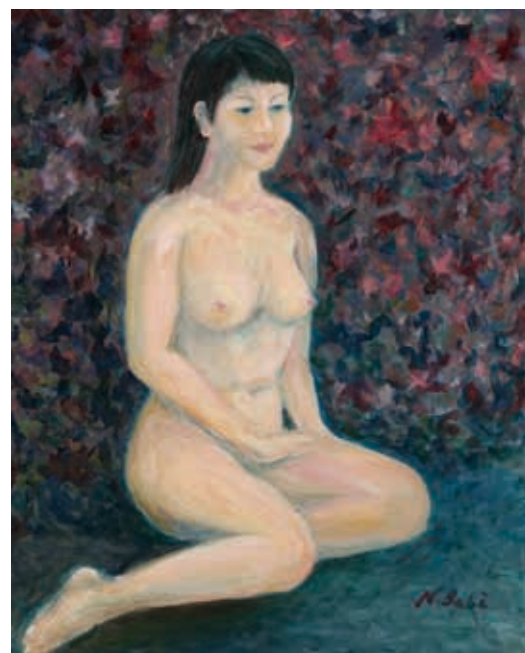
黄色の薔薇

本巢市 関田 節子



柳川の初夏

岐阜市 竹市 フサ



夢 想

瑞穂市 宇野 睦子



旅の思い出

瑞穂市 武藤 恵津子



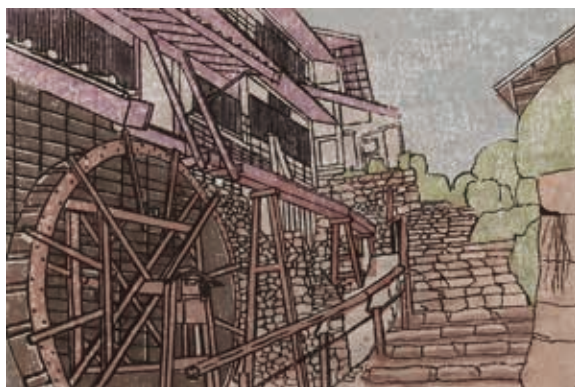
花ことば (自己愛)

大垣市 佐藤 春代



秋 (あき)

郡上市 大前 肇



馬籠

瑞浪市 片桐 洋治



清流

瑞浪市 勝股 敬



大銀杏 (上之郷)

土岐市 加藤 佳市

● 美術作品 ●

工 芸

※審査員 辻 喜久恵 氏
松岡 まち子 氏

優秀第一席



十二支

土岐市

小栗 恭子

それぞれの気持ちがそれぞれの表現として歌い、踊っている様で見ていて楽しく感じます。

優秀第二席



日本橋

土岐市

大井 すみ子

色使いがとても味わい深く、自身が絵の中に入ってみたくなる程にさそわれている様だ。

優秀第三席



端午の節句

瑞浪市

安藤 秀範

頭の中で浮かんできた物が素晴らしい作品を作りだし、色々と時の流れを表現されたのだと思う。

この光がまた楽しみだと思う。

優秀第四席



花器 胎動

瑞穂市 清水 きよ子



やみくも編みの籠

岐阜市 後藤 康子



まねき猫

羽島市
田中 真

優秀第五席



切り絵
雪の庭

土岐市
井野 太郎久



スヌーピー

羽島市
南谷 美由紀



和紙ちぎり絵 きつね

本巣市 大野 美千子



花 器

本巢市

森下 裕子



花雑巾 (はなぞうきん)

笠松町

野々垣 美智子



花

大垣市

水谷 紀子

工
芸



マクラメ タペストリー 雅

美濃加茂市 渡邊 富美枝



一心

大垣市

河合 将司



ハイビスカスの花

郡上市

吉岡 文子



つるし飾り 花づくし

恵那市 安藤 秀子



晴れ着姿の十二支

郡上市

北條 弘子



押絵 羽子板

瑞浪市

岩島 月子



切り絵 郡上踊り

瑞浪市

加藤 信子

● 美術作品 ●

彫 刻

※審査員 森島 昭道 氏

優秀第一席



彫
刻

緑風（りょくふう）

郡上市 熊崎 義登

木彫の美しさや、しっとりとしたテーマ性が人物の動きの中に表現されている。

木目を生かした前面および胸のあたりに量感を感じるとともに動きが表現されている。

優秀第二席



愛染明王像

瑞穂市 舘林 英昭

仏像の愛染明王像にテーマ性が感じられ顔や手の動きがすばらしい。

頭部の部分にはきめ細かな表現がされている。円卓（台座）の模様が規則正しく表現されている。

優秀第三席



赤い狐と緑の狸

大垣市 和田 悟

赤い狐と緑の狸の面にはそれぞれの表情が表現され、迫力のある作品になっている。

後ろの扇の盤に設置され、作品がまとまっていてすばらしい。

奨励賞



節木増

海津市 渡邊 勝正



キョウリュウ団らん

各務原市 野倉 光春

奨励賞



墨 壺

美濃加茂市 平谷 俊夫



阿弥陀如来坐像

大垣市 大内 博史

● 美術作品 ●

書

※審査員 早川 修 氏



優秀第一席

祥雲麗碧空

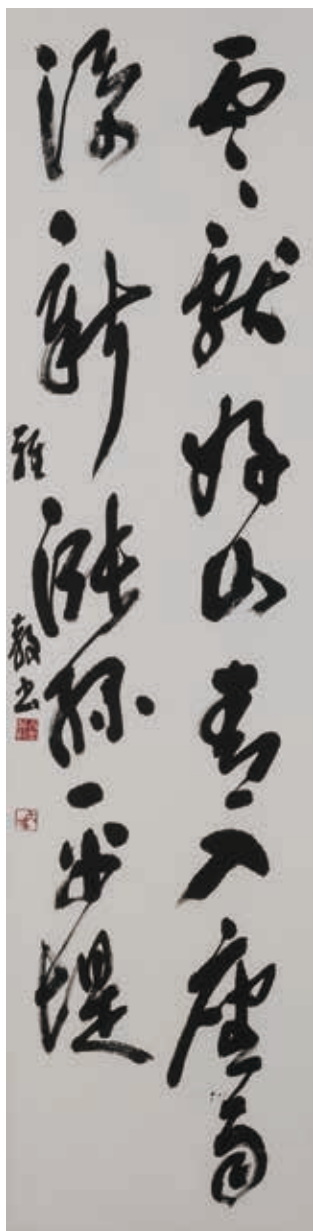
関ヶ原町

河合 久雄

隷書体を木に刻む。体力がありますね。
画数の多い文字と少ない文字により線の
太さが違ってきます。
横面と横面との間、文字間との間、
心地よく感じます。

優秀第二席

漢誌七言二句



各務原市 大里 雅教

十四文字の大小・長短を熟慮されています。紙の白が勝っているわけでもなく、逆に墨の黒が勝っているわけでもなく、紙面に程よく配置された仕上がりとなっていますね。

優秀第三席

旅



大垣市 田中 令子

長穂の筆で線にスピードの変化・太い・細いの変化を十分に表現できていると思います。また、紙の白と墨の黒のバランスも良く表現できていると思います。

李白の言葉



大垣市

齋藤 常正

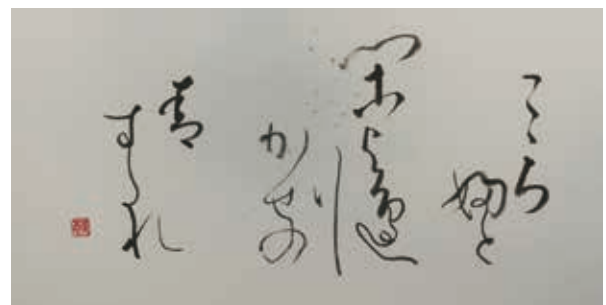
松風鶴夢清シ



大垣市

佐藤 敬顕

青すだれ



大垣市

福岡 篤子

優秀第四席

曹伯啓の句 江山如画知豪傑風月無私慰寂寥



岐阜市

吉村

由美子

優秀第五席

花と愛

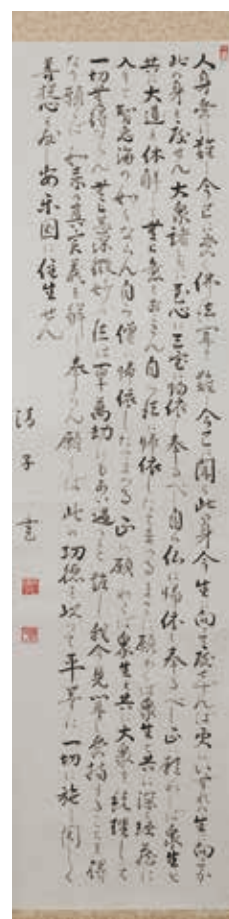


大垣市

早野

正美

仏書（ぶつしよ）



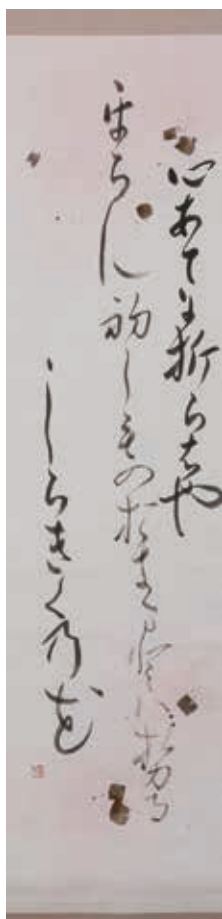
郡上市 岩上 清子



心に華を

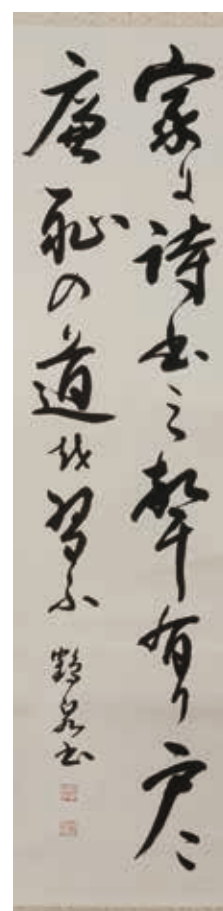
美濃加茂市
兼松 よお子

百人一首



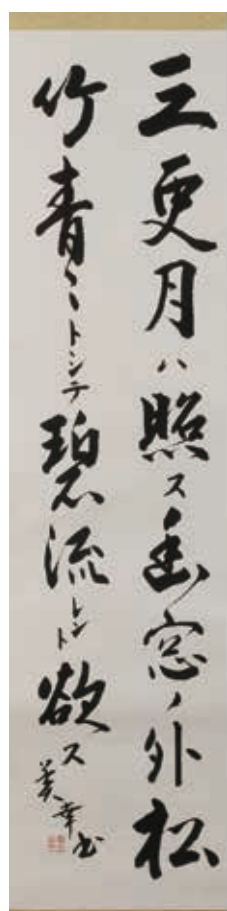
養老町 植田 芙美子

家に詩書の声有り



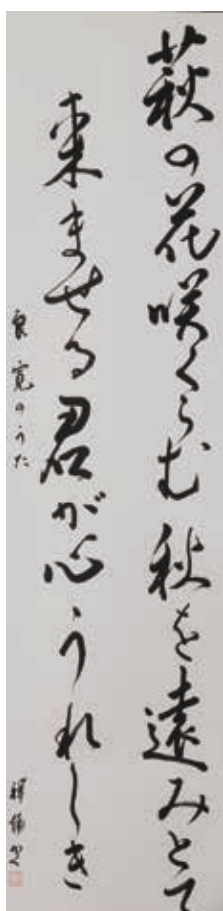
中津川市 瀬瀬 つる子

三更月は照らす画窓の外…



中津川市 田口 美幸

良寛詩 「萩の花」



多治見市 松瀬 都瑠枝

美術作品

写真

※審査員 安藤 茂喜 氏

優秀第一席



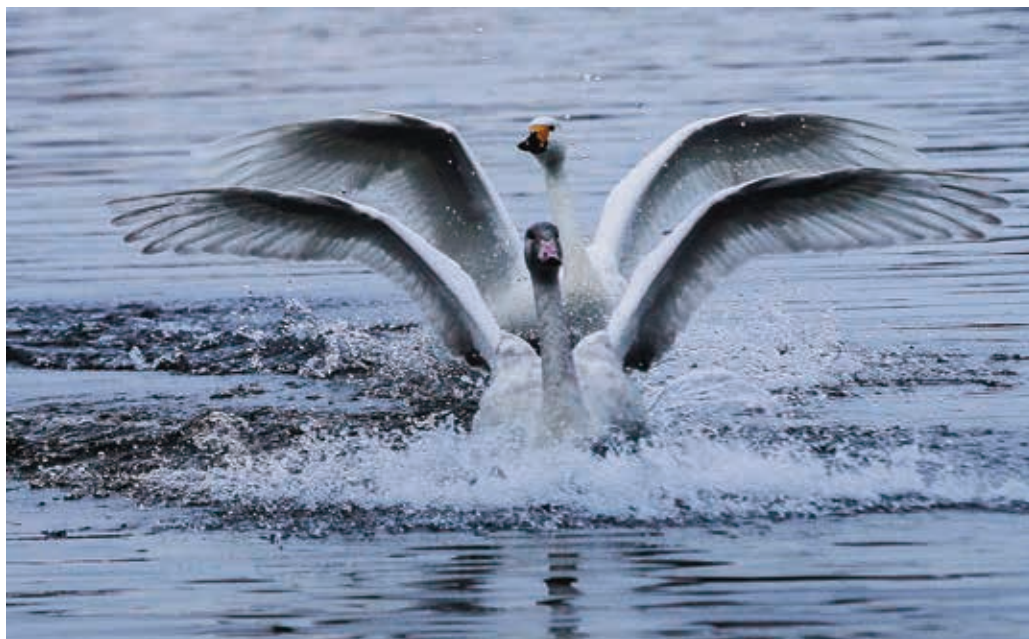
花吹雪舞う

恵那市 安藤 秀美

山車を覆いつくす赤と黄色の紙吹雪に迫力があります。

カラー写真ならではの原色が入り混じった作品は目を引く存在です。画面上部に写る地面をもう少しカットしたいです。

優秀第二席



親子で着水 岐阜市 可児 芳春

手前は幼鳥で後ろは親鳥でしょう。

同じポーズで仲睦まじい瞬間を捉えています。水しぶきが作品に動きをだしていて良いです。

優秀第三席



粃殻焼き

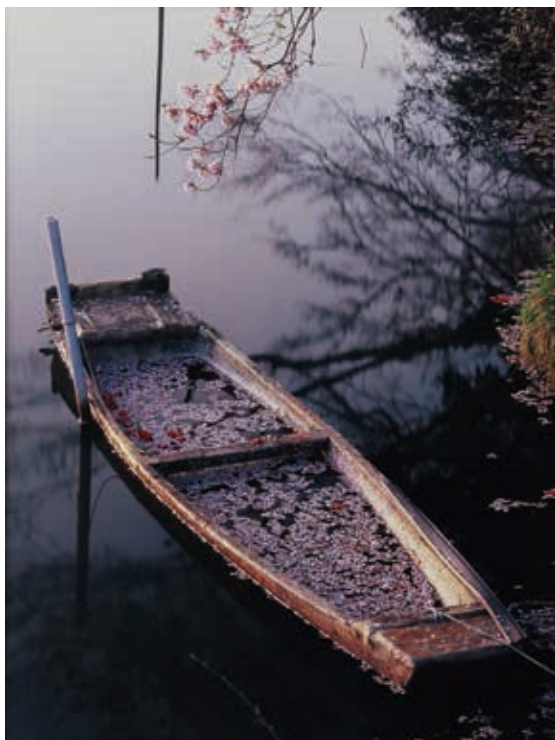
中津川市

梅田 壮一

斜めから入った光が効果的で晩秋の情景を上手く伝えています。立ち上がる煙が風の無い穏やかな日であることを伝えています。

人物の配置も良かったです。

優秀第四席



惜 春

瑞穂市 野川 速雄

優秀第五席



やったぜ！ 大物だ

恵那市 鈴木 吉一

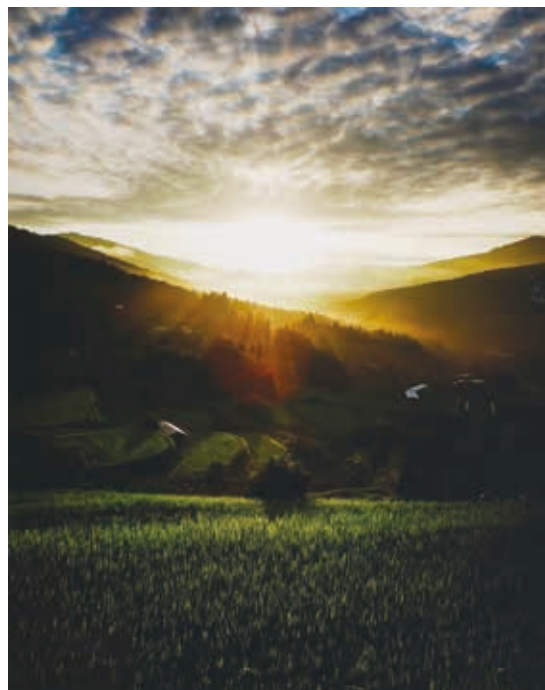
奨 励 賞

奨 励 賞



水上の曲芸

羽島市 山田 輔男



棚 田

中津川市 熊澤 一郎



回 転

羽島市

奥田 輝子



光 彩

羽島市

森 弘子



羽ばたき

羽島市

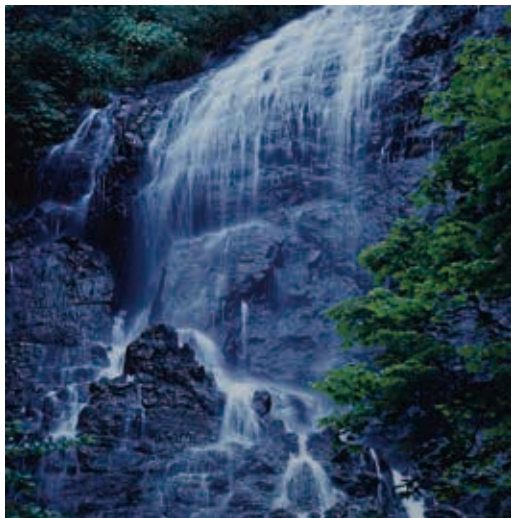
富田 昇



参 道

各務原市

杉岡 光昭



水音響く

瑞穂市

川瀬 清



飛 鮎

本巣市

浦上 豊實



蜜を求めて

大垣市

金森 正行



楽しい日

大垣市

灰野 栄一



雨上がりの フェイス

大垣市

加納 益雄



雪解けの朝に見た光景

大垣市

奥田 芳子



火影の織り

海津市

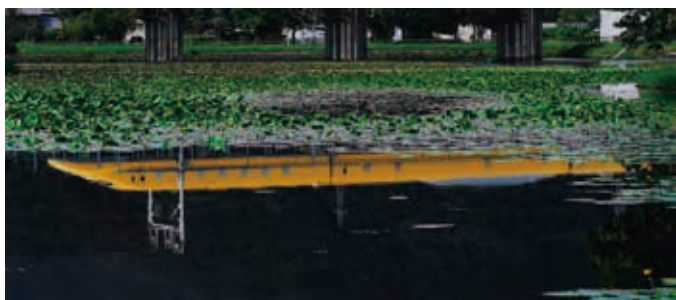
曾我 憲司



隠れ往く謎の城跡

垂井町

藤墳 裕悦



水中の検測（関ヶ原・十九女池）

関ヶ原町 安田 悦子



トルネード

美濃加茂市 渡辺 順次



逃げた大物

中津川市 田口 敏朗



かっぱ橋

瑞浪市 後藤 修



宇宙人？ハナショウブです

恵那市 山田 達好



幸 せ

瑞浪市 棚橋 義光

● 文芸作品 ●

● 短歌

● 俳句

● 川柳



短歌

※審査員 後藤 左右吉 氏

優秀第一席

紫陽花の色移りしを見せたくて
夫のベッドの高さを変える

中津川市 嶋倉みどり

老々介護のひと齣、作者が夫に示した動作が的確に表現され、ほのぼのとした夫婦愛がにじみ出ている。

優秀第二席

背丈まで伸びし青麦風を呼び

合唱の子らのように揺らぎぬ

郡上市 加藤 直子

青麦が風になびく様子を「合唱の子ら」のようだととらえたところがよい。さわやかな作品である。

優秀第三席

終着の降りたつ駅は冷やかに

伊吹風は頬をすりぬく

大垣市 高橋 久子

伊吹風の吹き抜ける終着駅。降り立ったのは作者だけかも知れない。孤独感が出ていてよい。

優秀
第四席 紫陽花の日毎に色の濃くなりて
雨の雫の染まるかと思ふ

各務原市 中野 多佳子

優秀
第五席 涼しき日畦踏みしめて草を刈る
水田に映る逞しき我

中津川市 粥川 孝美

和太鼓の連打に気負い連風の
友とつながり自由な空を

岐阜市 小野 茂登子

ねばらぬ事のなき今幸せよ
自由気ままに余生楽しむ

岐阜市 堀 学

生さぬ仲愛一筋に育てられ
今在る我に感謝の涙

羽島市 水谷 廣子

生かされて米寿過ぐるも短歌詠み
残り火燃やし九十路迎えむ

羽島市 中川 ゆう

遺されし壊れかけたる目覚ましの
今朝も律義に我を起こせる

羽島市 高橋 尚子

笑顔には若さを保つキラキラと

リズムに合わせ心ウキウキ
各務原市 山田 純子

風凪て客船見ゆる城あとに
武將の夢を偲びてひとり

本巣市 長友 美佐子

さすほどの雨にあらぬと折りたたむ
傘につきおり花の一片

大垣市 日比野 友子

病にて何もできずに伏せたるを
いとやるせなく悔しと思ふ

大垣市 佐竹 三千雄

検診日忘れぬようにメモ残し
どこいったかとあちこち探す

大垣市 田邊 之雄

しらじらと露立ちのぼる朝ぼらけ
梅雨明け知らず初蟬の声

大垣市 落合 守人

一滴の水も電気も節約し
能登半島の方々偲ぶ

養老町 大橋 正典

芽出して育てる野菜皆根付き
礼言ひ千切る労楽しけれ

養老町 村上 やす子

主人見ていつも笑顔で向かい合ひ

二人三脚長生きしよう
養老町 清水 康子

今日ひと日誰とも話さず過ぎたれば
夕べ鳴りたる電話うれしき

中津川市 楠 静子

白鷺の一羽は独り身二羽夫婦
飛びたつ三羽子連れならむか

中津川市 吉田 順代

この畑にトマト^{とまと}培い四十年
増えゆく土は苦難の歴史

中津川市 中島 さち子

口喧嘩後で後悔二人して
笑って食べる夕餉の肉ジャガ

中津川市 片田 百合子

手からその足先までがバチとなる
五人一組太鼓の演奏

中津川市 片田 久子

車替え操作の違う苛立ちに
テレビで見た事故脳裏を走る

中津川市 田口 美幸

五観の偈となえて頂く研修の
心に身体に沁みる昼食

中津川市 小島 裕子

混雑する駅の階段おりるとき

去年とちがうわが身の危うさ
中津川市 田口 享子

ボランティア仲間があつての支え合い
弁当作りの味見も楽し

中津川市 田口 いく代

谷あいのしぶきはじける岩のかけ
桃色のぞく狸々袴^{ももいろのぞくねねかば}

中津川市 吉村 恵子



俳句

※審査員 田中 青志 氏

優秀第一席

敬老日いたわれすぎさびしけり

岐阜市 小原 照吉

俗にいう「箸の上げ下げにまで」、優しく気遣ってくれる、敬老会のお世話をしてくれる人たちが嬉しくて有難く、従ってはいえるものの面映いのが実際 それほどまでに弱弱しく見えるのかと情けなく思うのも人情というものか、感謝、感謝、である反面さみしく思うのは贅沢というものか。
(さびしけりはさびしかりがよからうか)

優秀第二席

地球儀のどこかは戦火 五月闇

各務原市 多和田 瑠璃

わが国は敗戦後すでに七十九年 戦争を拒否し平和を維持してきた、「ノー、モア、戦争」を合言葉に 平和を享受してきたが、その惨たらしい人間の殺し合いの戦争が、この地球のどこかでまだ、行われていることは嘆かわしいことである、その世界平和の先が暗いのは悲しいこと、平和のよろしさを全世界の人々が理解してほしいと思うことしきりである。

(どこかははどこかにがよろしかろうか)

優秀第三席

法要の供物に金の真桑瓜

本巢市 古田 美代子

この金の真桑瓜は 黄金色によく熟れ真桑瓜 郷土の名産品 その立派な郷土の名産品をご先祖様にお供えしての法要、後から親族揃ってお添えをいただくのも 立派なご先祖様への感謝の供養なのです。

優秀
第四席
どくだみの匂ひのままの爪を切る

岐阜市 井川 しげ子

あやとりを孫とるとき妻少女

岐阜市 辻 雅宏

姫の住むほのかに光る竹の秋

各務原市 有間 崇生

春落葉仏足石に日の柔し

大垣市 新町 恵子

優秀
第五席
花むくげ腰無き筆の供養かな

大垣市 福岡 篤子

無住寺の静まりかへり白牡丹

岐阜市 寺田 雅子

寒椿雪にふるへて一つ咲く

各務原市 中野 多佳子

ガラス器の増ゆる食卓夏に入る

大垣市 早崎 美弥子

佳作
春泥を避けて離るる君の指

岐阜市 長屋 壽

東雲へ響む柏手年新た

岐阜市 山下 喜代子

春眠の夢でよかりし涙かな

本巢市 小嶋 歌子

五月雨や花嫁御簪傘の中

大垣市 奥田 和子

佳作
手向け花能登に哀悼春の海

大垣市 高木 章子

父祖眠る山河色づく豊の秋

岐阜市 堀 学

紫陽花や童子微笑む山の寺

本巢市 長友 美佐子

滝しぶき浴びて思はず深呼吸

大垣市 奥田 義明

百畳の本堂抜ける若葉風

岐阜市 井川 誠

薬草の山に遊ぶや秋茜^{あきあかね}

岐阜市 後藤 康子

梅雨間やかぼちゃの花の美味美味しい

本巢市 大平 美枝子

夕暮れの花の向こふにひとりをり

大垣市 日比 昌子

デパートの閉店セール夏惜しむ

岐阜市 奥田 雅章

朝晩の温度気になるお年ごろ

各務原市 山田 純子

初音聞くと奥の院へと続く道

大垣市 浅井 高男

柿若葉燃え滾る道呂久の道

大垣市 北村 えみ子

春近し三寒四温の繰り返し

大垣市 小寺 ま津子

城垣の丸に十字や梅雨に浮く

大垣市 今津 絹代

幾重にもよりそふ花びら紅牡丹

大垣市 石垣 真里子

保育器の声なき欠伸^{あくび}茄子の花

養老町 大橋 正典

神神の山萬緑に覆はれて

大垣市 島岡 嘉明

片蔭や猫の親子の寝そべりぬ

大垣市 高瀬 鈴子

庭すみが明るく見ゆる半夏生

大垣市 川出 久美子

耳遠き老ひの高声蝉時雨

養老町 安福 隆司

獅子岩も吠える熊野の大花火

大垣市 高橋 ふみえ

裾野まで香り屈きしみかんの花

大垣市 大角 信子

畑帰りほっと一息冷奴

大垣市 富田 洋子

小川^{せうりう}に若虫揺らす病葉や

中津川市 吉田 順代

雪洞やみな花冷えに影おとし

大垣市 堀江 敏子

眺望は「マチユピチユ」とやら山の夏

大垣市 鶴巻 タケノ

妣が待つ籠抱えし蓬とり

大垣市 林 みき子

風雨にも負けじと咲きし桜かな

大垣市 岩田 敏子

白墨の花に負けじと百寿の姉

大垣市 長江 稔二

卒業や孫ハイタッチの大きな掌

大垣市 上田 正衛

ゆつくりと海は初日と押し出しぬ

大垣市 日比野 友子

新緑へ手足とけゆく露天の湯

大垣市 浅野 正

腕借りて歩幅拡げる花吹雪

海津市 伊藤 見慧



川柳

※審査員 武山 博氏

優秀第一席

百まででは生きるつもり
の足洗う

本巢市 福田 和子

男性の平均寿命は八十二歳です。

私は今年八十三歳になりましたから、残りを余命と言っています。
作者は百まで生きるつもりで、平素から畑仕事に精を出したり、毎日
一万歩、と運動に心掛けているのでしよう。

「足洗う」という下句でそういう生活が目に見えるようです。

優秀第二席

父ゆずり男料理の冷奴

岐阜市 堀 学

「男子厨房に入らず」という言葉があることを幸いに、料理をしたことがあります。酒の肴ぐらいは自分で用意するとは、見上げた心がけです。

ひよつとして、「そのくらい自分でやってよ!」という声が出たのかもしれない。上句の「父ゆずり」が効いています。

優秀第三席

百均で無駄遣いする老い二人

各務原市 古川 豊

私も百均のファンです。店内に二時間いても飽くことはありません。よくもまあこの値段で、と感心しながらつい買ってしまう。年金暮らしですから「せつやく節約」と言いつつ余分な物まで買うのですね。ちなみに百円ショップの平均客単価は七百元程らしい。

優秀
第四席

これ大事あれも大事とゴミの部屋

養老町 清水 康子

優秀
第五席

Y O A S O B I が好きと言う孫叱りつけ

大垣市 山田 良子

一歩二歩牛歩で進む八十路坂

岐阜市 可知 百合子

体操は楽しめる憩いの場

各務原市 山田 純子

汗ぬぐいホールインワン願いトンボ引き

各務原市 刈谷 公兵

この頃は鶏にも劣る二歩わすれ

本巣市 石末 勉

「こめんね」は夫婦喧嘩の特効薬

大垣市 奥田 和子

葬式に飾る写真を選ぶ日々

大垣市 奥田 義明

だんまりは病のせいでやもをえず

大垣市 堀 吉則